京都府内の経済動向に関する情報交換会（第 45 回）概要

１　日時・場所

平成 29 年７月 31 日（月）13:30～16:00　京都府庁１号館３階会議室（記者会見室）

２　ゲストスピーカー

道の駅　京丹波味夢の里
駅長　沖 哲司 様

３　出席機関等（順不同）

・財務省近畿財務局 京都財務事務所
・日本銀行 京都支店
・株式会社京都銀行
・京都商工会議所
・京都府中小企業団体中央会
・立命館大学　教授　田中力 様
・京都市産業観光局 産業戦略部産業政策課
・京都府商工労働観光部 商業・経営支援課
・京都府商工労働観光部 労働・雇用政策課
・京都府政策企画部 企画統計課

４　概要

(1) ゲストスピーカーご講演概要

○道の駅の設置数は全国で 1100 箇所を超え、1200 箇所に近づこうとしている。京都府においても 18 箇所程度あり、この春に南山城村にも道の駅ができた。

○味夢の里においては、高速道路のサービスエリアという位置付けで利用される方が多い。一般道からのアクセスも可能で、高速道路側及び一般道側から合わせて 192 台の駐車が可能となっている。

○味夢の里施設内の京丹波マルシェにおいては、北部地域の海に関する産品、南部地域のお茶に関する産品など幅広く取り揃えている。フードコートやレストランでは、地域の特色あるメニューを提供している。コンシェルジュカウンターは、例えば京丹波町内でお祭りがどこであるのか、貸農園がどこにあるなどの京丹波町内の様々な情報を把握しており、お客様とのつなぎ役を担っている。大型テントスペースでは、バーベキューやコンサートを開催したりしているが、大災害時の避難場所としての役割もある。かまど型のベンチが５基設置されている。

○去年、京丹波町商工会の協力を得て、アンケート調査を実施した。「京丹波町のことを何で知ったか」という質問に対して、３割の方が道の駅で知ったという回答があった。京丹波町そのものの認知度を上げるためには、道の駅は非常に重要なポジションであることを再認識した。

○京丹波町には４つの道の駅があり、４つの道の駅を活性化することを目的として道の駅連絡協議会を設立した。道の駅連絡協議会では、食材の卸売り（食の京丹波活性化プロジェクト）などを既に実施している。石井食品様との連携事業で地山のタケノコを使った食品を製作した。あべのハルカスにおいても、道の駅連絡協議会が主導でイベントを実施した。

○味夢の里では、食をテーマにした観光に力を入れるのが最も求められていることだと認識し

ており、京丹波町フードツーリズムを推進している。フードツーリズムとは、「食べる」、「買う」、「体験する」、「学ぶ」の４つから構成されている。

○「食べる」ということに関して、味夢の里には、南丹広域振興局が行っている京都丹波イチ推しの食プロジェクトで、ホテルグランヴィアグループの総料理長様のご協力を得て開発した「京丹波黒どんぶり」などがある。黒にまつわる食材を使ったどんぶりである。

○「買う」ということに関しては、黒豆が一番多い。その他に山間部地域の加工品として代表的なものが鯖寿司がある。今でもお祭りや運動会というとおばあちゃんが鯖寿司を作る家庭も多い。

○「体験する」ということに関しては、農家民宿（コンドミニアム）や貸農園がある。

○「学ぶ」ということに関しては、観光協会主催で鯖寿司教室を実施し、多くの方に来ていただいた。歴史や文化も一緒にお伝えすることができた。

○道の駅の新たな使命として、町外だけではなく町内にも目を向けるべきではないかと考えている。味夢の里は、多くの出荷者様が訪れ、多くの方がご存知の場所でもあるので、地域のコミュニティの形成場所になれるのではないかと考えている。

○須知高校の生徒が、野菜の粉末を混ぜたしょうゆ味ソフトクリームをサラダソフトとして売りだしたいとの提案があった。その後、生徒たちと売出し方について勉強会を重ね、最終プレゼンテーションには、町長、町議会議長、協力企業等が出席した。ソフトクリーム総合メーカー大手のニッセイ様に全面協力をしていただくこととなった。

○道の駅は今後、物を並べているだけではやっていけない時代が来ると感じており、地域に目を向けた活動も必要になってくると考えている。また、味夢の里では、伊豆や広島県世羅町などの遠方の道の駅との連携も模索しており、遠方の道の駅同士が色んな形で結ばれていくのも今後の展開としてあるのではないかと考えている。

(2) 会議要旨

＜財務省近畿財務局 京都財務事務所＞

○平成 29 年４～６月期の企業の景況判断ＢＳＩ（前期比「上昇」―「下降」社数構成比、原数値）をみると、全産業で「下降」超となっている。規模別にみると、大企業では「上昇」と「下降」が均衡、中堅企業、中小企業では「下降」超となっている。先行きについて全産業でみると、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

＜日本銀行 京都支店＞

○京都府・滋賀県の景気は、緩やかに拡大している。

○個人消費は、緩やかに持ち直している。設備投資は、増加している。住宅投資は、幾分弱めの動きとなっている。公共投資は、横ばい圏内の動きとなっている。生産、輸出は、増加基調にある。労働需給は引き締まっており、雇用者所得も緩やかに増加している。

○６月短観における全産業の業況判断ＤＩは、前回調査に比べて「良い超」幅が拡大している。

＜株式会社京都銀行＞

○最近の京都経済は、ごく一部に弱めの動きが残るものの、多くの項目で持ち直しの動きが広がりつつあり、全体としては着実な回復基調を持続している。すなわち、個人・家計部門は個人消費が雇用情勢の改善とともに消費マインドも緩やかに改善しており、底堅く持ち直しつつある。ただ、住宅投資は年初来、弱めの動きに終始している。一方、企業部門は、生産が輸出の持ち直し等を背景に高水準レベルを持続し、設備投資も大企業を中心に増加傾向にある。

＜京都府中小企業団体中央会＞

○多くの業界において人手不足の慢性化が見られ、働き方改革、職場環境の整備など様々な取り組みが始まっているものの、中小・零細企業においては対応に苦慮している状況が窺える。経営環境に不安材料は多く、今後の動向に注視が必要である。

＜京都商工会議所＞

○自社業況ＢＳＩ値は▲0.1（前期実績▲8.1）とほぼ横ばいとなり、改善業種と悪化業種が二極化する結果となった。

○今後の予想として、７～９月期の自社業況ＢＳＩ値は、▲1.0と幅広い業種でやや下降がみられ、マイナスでの推移を予想しているが、秋の需要期となる10～12月期は、ＢＳＩ値9.5と旅館・ホテル、小売業、製造業などを中心にほぼ全ての業種で上昇を予想しており、特に、一般機械製造では、自動車関連部品の増加が業況改善に寄与するなど、全体として緩やかな回復基調に転じる。

＜京都市産業観光局 産業戦略部産業政策課＞

○市内中小企業の景況について、今期（平成29年４月～６月）の企業景気ＤＩは、全産業で7.4ポイント上昇（36.3→43.7）。製造業で7.6ポイント上昇（37.4→45.0）、非製造業は7.1ポイント上昇（35.2→42.3）。業種別では、化学、機械、情報通信の企業景気ＤＩが50を超えるなど、幅広い業種で上昇。

○来期（平成29年７月～９月）の企業景気ＤＩ見通しは、全産業で1.2ポイント上昇（43.7→44.9）。製造業で0.8ポイント上昇（45.0→45.8）、非製造業で1.7ポイント上昇（42.3→44.0）。先行きについては、化学、金属、卸売などで上昇を見込んでいる。

＜京都府政策企画部 企画統計課＞

○平成29年６月の京都市消費者物価指数について、総合指数は100.6で、前月比で0.1%の上昇、前年同月比で0.8%の上昇となった。

○平成29年５月の京都府鉱工業指数（速報）の概況については、生産は緩やかな持ち直しとなっている。

○京都府経済の動向（平成29年７月報告）における総合判断については、「府内の景気は、このところ弱さがあるものの、緩やかな回復基調である。」としている。